

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

発行：吉田 淳

事務局：愛知教育大学理科教育講座 内

URL：<http://www.jsse.jp>

2010.12.15

NO.200

科学教育研究レター



目 次

- | | |
|--|--|
| ■ ニュースレター 200 号記念学会長挨拶
科学教育研究レター 200 号の
発行に寄せて.....2 | ■ 若手の会
第 35 回年会での会合.....13
若手の会メーリングリストのご案内.....13 |
| ■ 総会
第 34 回定時総会報告.....3 | ■ 研究会・支部だより
平成 22 年度第 5 回研究会
(中国支部主催)のご案内.....13 |
| ■ 理事会だより
第 240 回理事会報告.....4
第 241 回理事会報告.....6
第 243 回理事会報告(案).....8
第 34 回顧問会・評議員会・
支部役員会合同会議報告.....10 | ■ 編集理事会だより
平成 22 年度第 2 回編集理事会報告.....14 |
| ■ 年会
第 35 回年会開催案内(第 2 次).....11 | ■ 会員の声
国際貢献賞を受賞して.....15 |
| | ■ 広報委員会からのお知らせ.....16 |

科学教育研究レター 200 号の発行に寄せて

日本科学教育学会は 1977 年の発足以来 33 年間の歴史を振り返ってみると、科学教育研究は様々な科学教育の研究分野へ拡大発展してきました。科学教育の対象者については学校の児童生徒にとどまらず、社会市民を対象者として科学についての理解と普及を図る「科学コミュニケーション」などへと発展してきました。また、科学教育の分野として発足当時では、物理教育、化学教育、生物教育、地学教育、理科教育、算数数学教育、数理科学教育、統計教育、教育心理学、認知科学、教育評価、教育工学、情報教育、コンピュータの教育利用、教育情報、授業研究、教育方法、教師教育などとしていましたが、科学技術の革新、社会の変化や研究上のニーズ等により多くの新研究分野が生み出されてきたと言えます。また、多くの研究分野において教材の開発や指導法の改善、教育メディアの革新などさまざまな研究内容や手法が考案され大いに研究成果を上げてきました。今後は急速な技術革新や社会的ニーズの多様化などにより、教育研究としての発展深化が期待されます。

一方、1977 年以降学校の教育課程における科学教育（算数数学、理科、技術）の授業時数の減少、内容の縮減が繰り返され、先進国では最低水準にまで落ち込んできました。その間、社会の多様化の中で数学離れや理科離れが進んできたともいえます。2008 年告示の教育課程ではこれから科目の授業時数や内容が少し回復し、学校教育における科学教育の重要性が再認識されてきたといえます。授業時数や内容が回復したからと言って、従来の考え方である知識注入式の科学教育に戻るのではなく、科学教育では将来の科学技術の発展を担う人材育成と広く市民に対する科学リテラシーの育成の両面を考慮していくことが重要であると言えます。我が国の科学技術水準が世界をリードし続けるためには、科学教育はきわめて重要であることは誰も認識しています。科学教育の持つ機能と役割を再評価し、これからの科学教育のあるべき姿や目標、理念などを研究していくことも、日本科学教育学会に課せられた課題であります。学校教育を含めた科学教育の改革が求められていると言えます。とりわけ、卓越した能力を持つ児童生徒に対する科学教育については、理念、研究、実践ともに未熟な領域です。また、幼児に対する科学教育や大学や企業における科学技術教育、市民のための科学教育について充実発展させることを願っています。

さて、本学会の科学教育研究レターは、学術交流・研究情報の交流を目的として毎年 6 回定期発行しています。レターの発行については広報委員会が企画、構成、執筆依頼、編集などを進め、学会員に有用な情報を提供していただいています。毎年 6 回の発行を滞ることなく継続していただいたこれまでの広報委員会に皆様に感謝いたします。今後も会員間の情報提供・交流の場として期待しています。

(学会長・吉田 淳)

日 時 2010 年 9 月 11 日 (土) 11:30 ~ 13:00

会 場 広島大学 教育学研究科 K102 教室

次 第

1. 開会の辞 (吉川 厚 副会長)
2. 第 34 回年会実行委員会事務局長挨拶 (岩崎秀樹 実行委員長)
3. 会長挨拶 (吉田 淳 会長)
4. 議長選出
定款第 26 条により吉田 淳会長を議長に選出した。
5. 議事録署名人委任 (吉田 淳 会長)
議事録署名人を岩崎秀樹 (広島大学大学院)、寺野隆雄 (東京工業大学大学院) の両会員に委任することを拍手をもって承認した。
総会出席者 62 名、委任状 107 通で定時総会成立を確認した。
6. 審議 (議長 吉田 淳 会長)
 - 1) 第 1 号議案の提案 (吉岡亮衛・坂谷内勝 理事)
2009 年事業報告書及び 2009 年収支決算書の説明と提案が行われた。
 - 2) 監査報告 (松原静郎 監事)
監査の結果、学会のすべての会計処理が適正に行われていたことを確認した旨の報告があり、第 1 号議案は承認された。
 - 3) 第 2 号議案の提案 (吉岡亮衛・坂谷内勝 理事)
2010 年度事業計画書及び 2010 年度予算書 (案) の説明と提案が行われ、第 2 号議案は承認された。
 - 4) 第 3 号議案の提案 (吉岡亮衛 理事)
新役員候補の説明と提案が行われ、第 3 号議案は承認された。
 - 5) 第 4 号議案の提案
名誉会員候補の説明と提案が行われ、第 4 号議案は承認された。
7. 表彰
 - 1) 経過報告
学会賞選考委員会での選考経過の報告が行われた。 (美馬のゆり 理事)
 - 2) 表彰 (吉田 淳 会長)
 - 大塚賞
 - ・中山和彦 (筑波大学名誉教授)
 - 国際貢献賞
 - ・大隅紀和 (京都教育大学名誉教授)
 - 教育実践賞
 - ・吉岡有文 (元東京都立練馬高等学校教諭、青山学院大学大学院博士後期課程)
 - 年会発表賞
 - ・宮崎樹夫 (信州大学教育学部)、湯本武司 (松本市立開成中学校)
 - ・泉 俊輔 (広島大学大学院理学研究科)、中山広文 (岡山県立倉敷天城中学校)、進藤明彦 (岡山県立玉島高等学校)
 - ・高橋みどり (静岡科学館)、亀井 修 (国立科学博物館)、小川義和 (国立科学博物館)、田邊玲奈 (国立科学博物館)、田代英俊 (科学技術館)
8. 次年度第 35 回年会実行委員長挨拶
(寺野隆雄 東京工業大学院教授・代理 吉川 厚 同連携教授)
9. 閉会の辞 (吉川 厚 副会長)
(記録：稲垣成哲 理事)

議事録署名人

日本科学教育学会第 34 回定時総会の議事が、上記のように執り行われたことが間違いのないことを証します。

岩崎秀樹 (第 34 回年会実行委員会委員長) 吉川 厚 (第 35 回年会実行委員会委員) (寺野隆雄会員が不測の事態により吉川厚会員に代理署名をお願いしたことによる)

日本科学教育学会第 240 回理事会報告

(要点のみ参考掲載)

日時 2010年6月19日(土) 13:00～17:00
会場 コクヨ(株) 品川本館 11階 1101号室
出席者 会長 吉田
理事 飯島、稲垣、岩崎、荻原、小倉、加藤、
熊野、佐伯、坂谷内、丹沢、中山、東原、
藤岡、益子、吉岡、渡辺
監事 鶴岡
年会企画委員長 高藤
顧問 大木

1. 議事要録(案)の承認
○第239回議事要録(案)を承認した。
2. 第240回理事会までの電子会議による審議事項
○筑波大学からの第5回「科学の芽」賞にかかわる後援申請について承認した(4月9日)。
○「青少年のための科学の祭典 2010」への後援申請について承認した(5月11日)。
○日本第四紀学会からの当学会シンポジウムの共催申請について承認し、小川義和会員をシンポジストとして派遣することとした(5月19日)。
○日本数学教育学会からの東アジア数学教育国際会議への後援申請について承認した(5月19日)
○第34回年会のサブテーマ「社会とのグラウンディングを求めて」について審議中である。
3. 報告事項
 - 1) 庶務・事務局
○2012年度以降における年会開催候補の推薦依頼を各支部長に送付した(3月8日)。
○文部科学省に対して第34回年会に関する後援依頼書類を発送した(5月14日)。
○中西印刷株式会社との2010年度事務委託に関する手続きを開始した(6月2日)。
 - 2) 経理・会員
○入会希望者(～6月17日)の電子会議審査について
事務局からの発議により、3月11日までに入会を希望した3名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(4月1日)。
事務局からの発議により、4月9日までに入会を希望した6名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(4月22日)。
事務局からの発議により、5月10日までに入会を希望した14名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(5月21日)。
事務局からの発議により、5月31日までに入会を希望した11名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(6月14日)。
事務局からの発議により、6月15日までに入会を希望した11名を電子会議により審査中である(6月17日現在)。
○入会者について
事務支局より承認の通知および入会手続きの案内を行い、入会金・年会費の振込が確認された8名が正式に入会となった(6月3日)。
 - 3) 機関誌編集

- 機関誌編集状況について報告された。
 - ・新規投稿論文 (2010.5.20～2010.6.9)：2編 (内訳：和文2編、英文0編)
 - ・査読中論文 (6月9日現在)：18編 (内訳：7編：第1回目、6編：再投稿待ち、3編：2回目、1編：査読員選定中、1編：担当編集員による総合判定中 (1回目))
 - ・掲載決定論文 (6月9日現在)：19編 (内訳：招待論文2編、研究論文14編、資料3編)
 - 4) 年会企画
 - 第34回年会の準備状況について報告された。
 - 5) 研究会
 - 2009年度研究会の開催結果について報告された。
 - 6) 学術交流
 - 教科理科関連協議会への参加について、現職教員の出席の必要性が提起された。
 - 7) 学会賞・国際
 - 平成22年5月24日に2010年度学会賞候補者の推薦を締め切った。
 - 8) 広報
 - 学会Webサイトを6月1日より民間企業に移行した。
 - 9) 選挙管理委員会
 - 役員選挙の結果について報告された。
 - ・理事候補者 (任期4年)：縣 秀彦、銀島 文、今村哲史、片平克弘、久保田善彦、小川義和、猿田祐嗣、隅田 学 次点：森本弘一
 - ・会長推薦理事 (任期4年)：小山正孝、高藤清美
 - ・監事候補者 (任期4年)：堀 哲夫 次点：野上智行
 - 10) 経理
 - 2009年度決算及び2010年度事業計画について報告された。
4. 協議事項
- 1) 退会希望者等について
 - 退会希望者 5名を承認した。
 - *現在会員数1,271名 年度末退会者を含む (2010年6月3日付け)。
(正会員1,184名、学生会員73名、公共会員1名、賛助会員3名、名誉会員10名)
 - 2) 名誉会員について
 - 名誉会員について、次の4名を推薦することとした。
名誉会員候補：大木道則、木村捨雄、西之園晴夫、伊藤 卓
 - 名誉会員候補者の推薦ルールについて継続的に検討することとした。
 - 3) 第34回年会について
 - 第34回年会の趣旨及びサブテーマについて承認された。
 - 第35回年会開催校について、東京工業大学に決定した。
 - 第36回年会開催校について、東京理科大学に決定した。
 - 4) 2010年度学会賞について
 - 大塚賞は、中山和彦会員に決定した。
 - 学術賞は該当なしとなった。
 - 論文賞は該当なしとなった。
 - 国際貢献賞は、大隅紀和会員に決定した。
 - 教育実践賞は、吉岡有文会員に決定した。
 - 年会発表賞は継続審議となった。
 - 5) 2010年度研究会開催について
 - 研究会開催支部は6支部 (東北支部、南関東支部、東海支部、北陸甲信越支部、中国支部、九州沖縄支部) が承認された。
 - 研究会のHP編集を担当する幹事について選出作業を進めることとした。
 - 6) リポジトリへの対応について
 - ポリシーは「査読後論文のみ認める」ものとした。
 - 公開可能なファイルは「CiNiiにおいて掲載されているpdfファイルのみ認める」ものとした。
 - 公開場所は「機関リポジトリおよび著者のwebサイト」とした。
 - 公開条件は「出典表示を行うこと」とした。

- 上記の公開規則は JSSE の web サイトにおいて公開するものとした。
- 7) 評議員及び支部役員について
 - 新年度評議員候補（任期2年）について理事会推薦をまとめることになった。
 - 新年度支部役員（任期2年）について支部の推薦状況をまとめることになった。
- 8) 第34回定時総会の議事案件について
 - 第34回定時総会の議事案件について承認された。
- 9) 他団体の事業に対する学会後援について
 - 今後は、会長及び事務局で判断し、報告事項とすることになった。

次回以降の理事会予定

- 第241回：2010年9月10日（金）15時から16時 広島大学東広島キャンパス
- 第242回：2010年9月12日（日）12時30分から13時30分 広島大学東広島キャンパス

日本科学教育学会第241回理事会報告

（要点のみ参考掲載）

日 時	2010年9月10日（金）15:00～16:00
会 場	広島大学教育学研究科 K215 教室
出席者	会長 吉田 理事 飯島、稲垣、岩崎、荻原、熊野、坂谷内、 土田、中山、藤岡、益子、美馬、吉岡 吉川、渡辺 監事 松原、鶴岡 年会企画委員長 高藤 顧問 木村、小川

1. 議事要録（案）の承認
 - 第240回議事要録（案）が承認された。
2. 第241回理事会までの電子会議による審議事項及び報告事項
 - 学会賞選考委員会より6月21日付けで発議された平成22年度年会発表賞について承認した（6月26日）
 - 会長・経理より7月20日付けで発議された平成21年度決算案及び平成22年度予算案について承認した（7月27日）。
 - 会長より9月1日付けで発議された平成22年度からの編集委員会の構成について承認した（9月9日）。
 - 会長より9月8日付けで発議された平成22年度からの支部長候補者（未定の関西支部を除く）について承認した（9月9日）。
3. 報告事項
 - 1) 庶務・事務局
 - 理事・監事候補への委嘱状を発送した（6月24日）。
 - 第34回年会における文部科学省からの後援受諾について報告した（6月30日）。
 - 学会通信を会員に送付した（8月23日）。
 - 評議員候補への委嘱状を発送した（8月25日）
 - 会長より平成22年度からの役員会務が報告された（8月31日）。
 - 会長より平成22年度からの編集委員会委員長及び副委員長の委嘱が報告された（9月1日）。

- 会長より平成 22 年度からの評議員候補の構成が報告された（9 月 1 日）。
- 会長より平成 22 年度からの年会企画委員会委員長及び副委員長の委嘱が報告された（9 月 2 日）
- 2) 経理・会員
 - 入会希望者（～8 月 26 日）の電子会議審査について報告された。
 - 事務局からの発議により、6 月 29 日までに入会を希望した 8 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（7 月 7 日）。
 - 事務局からの発議により、7 月 23 日までに入会を希望した 5 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（7 月 31 日）。
 - 事務局からの発議により、8 月 11 日までに入会を希望した 3 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（8 月 20 日）。
 - 入会者について報告された。
 - 事務支局より承認の通知および入会手続きの案内を行い、入会金・年会費の振込が確認された 54 名が正式に入会となった（8 月 26 日）。
- 3) 機関誌編集
 - 機関誌編集状況について、以下のように報告された。
 - ・新規投稿論文（2010.6.10～2010.9.2）：12 編（内訳：和文；11 編、英文；1 編）
 - ・査読中論文：16 編（内訳：担当編集員選定中；1 編、査読者選定中；1 編、第 1 回査読；5 編、再投稿待ち；2 編、第 2 回査読；5 編）
 - ・掲載決定論文：7 編（内訳：研究論文；5 編、資料；1 編、展望総説；1 編）（34-3；6 編、34-4；1 編）
- 4) 年会企画
 - 第 34 回年会の準備状況について報告された。
 - 第 35 回年会の実行委員長が寺野隆雄氏（東京工業大学）に決定したことが報告された。
- 5) 研究会
 - 新年度の研究会の開催方法等について報告された。
- 6) 学術交流
 - 教科理科関連協議会のシンポジウム開催について紹介された。
 - 教科理科関連協議会への学会からの出席者として後藤頭一氏（国立教育政策研究所）に依頼することが報告された。
- 7) 学会賞・国際
 - 年会発表賞の投票促進策について報告された。
- 8) 広報
 - 広報委員会の新年度の体制について報告された。
- 9) 第 34 回合同会議及び定時総会の次第について報告された。

4. 協議事項

- 1) 退会希望者等について
 - 退会希望者 55 名が承認された。
 - *現在会員数 1,269 名 年度末退会者を含む（2010 年 8 月 26 日付け）。
 - （正会員 1,182 名、学生会員 74 名、公共会員 1 名、賛助会員 3 名、名誉会員 9 名）
 - 除籍対象者について協議され、一部は継続審議となった。
- 2) 査読規定の追加修正案について承認された。
- 3) 新規役員への円滑な引き継ぎの方法について、各会務で迅速に遂行することが確認された。

次回以降の理事会予定

第 242 回：2010 年 9 月 12 日（日）12 時 30 分から 13 時 30 分 広島大学東広島キャンパス

日本科学教育学会第 243 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2010 年 11 月 20 日（土）14:00～17:00
会 場 内田洋行 東陽町オフィス会議室
出席者 会長 吉田
理事 今村、小川、片平、銀島、坂谷内、
猿田、高藤、土田、美馬、吉岡
委員長 編集委員会（中山）

1. 議事要録（案）の承認

- 第 241 回理事会議事要録（案）を承認した。
- 第 242 回理事会議事要録（案）を承認した。

2. 第 243 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

- 吉田会長から 10 月 6 日に発議された平成 22 年度の年会企画委員会組織（案）について承認した（11 月 5 日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

- 事務局での受理文書について報告があった。
- 学会ホームページの「科学教育レター」および「学会通信」のページのユーザ登録ボタンを削除した（9 月 6 日）。
- 新支部長への委嘱依頼を行なった（9 月 7 日）。
- 役員及び理事メーリングリストの更新した（9 月 22 日）。
- 評議員委嘱状況について、11 月 12 日現在で 46 名から承諾書を受けとっている。
- 北海道支部長の交代により新たに委嘱を行なった（9 月 18 日）。
- 四国支部へ支部会員情報を提供した（10 月 5 日）。
- 第 1 回 科学技術教育フォーラム 科学技術立国を支える問題解決教育-世界トップレベルをめざす産官学共創の人材育成-への後援名義使用を許諾した（10 月 21 日）。
- 第 34 回広島大会の実行委員会宛の礼状を送付した（10 月 18 日）。
- 独）大学評価・学位授与機構よりの専門委員推薦依頼に回答した（11 月 1 日）。
- Tafida Sayed Ahmed Ghanem 氏への会員証明を発行した（10 月 27 日）。
- ワークショップ「21 世紀型科学教育の創造 2010」への後援名義使用を許諾した（10 月 28 日）。
- 著作権講演会のお知らせ（一般社団法人 学術著作権協会）を関係理事へ転送した（11 月 3 日）。
- 第 34 回定時総会の議事録署名を完了した（11 月 5 日）。
- 新たに正会員 1 名に学術交流委員を委嘱した（11 月 11 日）。
- 拡大役員メーリングリストを更新した（11 月 11 日）。
- 年会企画委員に委嘱状を発送した（11 月 17 日）。

2) 経理・会員

- 入会希望者（～10 月 29 日）の電子会議審査について報告された。
 - ・事務局からの発議により、9 月 29 日までに入会を希望した 13 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（10 月 7 日）。
 - ・事務局からの発議により、10 月 29 日までに入会を希望した 9 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（11 月 5 日）。
- 除籍対象者について、第 241 回理事会で除籍対象者の除籍を留保した会員のうち 4 名が

会費を納め会員を継続していると報告された。

3) 機関誌編集

- 機関誌編集状況について、次の通り報告された。
 - ・新規投稿論文 (2010.9.3～2010.11.11) : 15 篇 (内訳 : 和文 15 篇、英文 0 篇)
 - ・査読中論文 (11 月 11 日現在) : 21 篇 (内訳 : 12 篇 : 1 回目、5 篇 : 再投稿待ち、1 篇 : 2 回目、1 篇 : 査読員選定中、1 篇 : 担当編集委員による総合判定中 (1 回目)、1 篇 : 担当編集委員による総合判定中 (2 回目))
 - ・掲載決定論文 (11 月 11 日現在) : 7 篇 (内訳 : 研究論文 6 篇、資料 1 篇、(34-4 : 6 篇、35-1 : 1 篇))
- 第 36 巻第 2 号の特集については、「科学才能教育 (Science Education for Gifted)」をテーマとすることが、11 月 20 日に行われた平成 22 年度第 1 回編集理事会で承認され、平成 23 年 2 月末の会員告知へ向けて準備を進める。
- 学会誌巻頭言の原稿執筆依頼については、第 35 巻第 1 号から第 4 号までの担当を決めたので執筆依頼をする。

4) 学会賞

- 第 34 回年会発表賞については、投票総数は、63 票。4 票が 1 件、2 票が 7 件、1 票が 45 件という結果であった。

5) 支部・研究会

- 研究会の事務処理経費について、新年度の事務の 3 分の 1 を既に前任者が行なっているため、事務処理経費の配分についても同じ割合で行なう。
- 研究会の名称については、第 239 回理事会で、研究報告誌の表紙に支部大会名を冠しないこととする旨、決定されているが、その後も大会の名称についてホームページやレター等で揺らぎが見られるため、周知徹底することを申し合わせた。

6) 調査研究・学术交流

- 「CSERS シンポジウム 小学校教員の資質確保に向けて」を 12 月 4 日お茶の水の化学会館 7F ホールにて開催する。
- サイエンスアゴラ 2010 開催中 (平成 22 年 11 月 19 日～21 日 (<http://www.science- agora.org/>))。

7) 年会企画

- 第 35 回年会 (東京工業大学) に向けての準備状況が資料に基づいて報告された。
 - ・第 35 回年会会場は、東京工業大学すずかけ台キャンパスに変更になった。(期日等は変更なし)
 - ・年会論文集については電子媒体の併用を検討している。

8) 組織改革

- 法人化の問題については、引き続き検討をしていく。

9) 会員拡大

- 拡大策の検討については、熊野副会長を交えて検討していく。

10) その他

- 編集委員会の委員長、委員等への委嘱手続きが済んでいないので、至急委嘱手続きを行なう。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

- 退会希望者 25 名が承認された。
 - * 現在会員数 1,255 名 年度末退会者を含む (2010 年 11 月 9 日付け)。
(正会員 1,172 名、学生会員 66 名、公共会員 1 名、賛助会員 3 名、名誉会員 13 名)
- 2) 学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ) への回答 (10 月 5 日) (9 月 27 日 web ページによりポリシー変更) を次のように修正要求する。(下線部分)

名称 日本科学教育学会

ポリシー : Blue (査読後論文のみ認める)

出版社版の利用 : CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) において公開されている pdf ファイルをそのまま使うこと。

公開場所： 著作者個人の Web サイト、機関リポジトリ

公開条件： 出典表示を行うこと

- 3) 会長より、正会員 1 名に庶務幹事を委嘱するとの提案があり承認された。
- 4) 正会員 1 名に研究会の幹事を委嘱し、研究報告の編集（一部）とホームページ担当を依頼する予定であることについて、本人の了解が得られ次第承認とする。
- 5) 支部規程、研究会規約について、担当理事の間で検討し規約を改訂する。
- 6) 学会宛にやって来るメールニュース等を会員に転送することとし、その方法として広報委員会からメールマガジンで配信する。
- 7) 会長から「学会活動をどのように活性化するか」についての検討（協議）事項をメールリストに提案するよう依頼があった。
- 8) その他
 - 役員・委員への委嘱行為の統一について
今後の方針として、「委員その他として学会活動に寄与する者に対しては、特に定めが無い場合においても、会長名による委嘱状を送付することとし、委員会については承諾書を徴取しないこととする。」とした。
 - 『規程』の表記の統一について
本学会の諸規程の『規程』と「規定」の文字の使用の不統一を、大辞泉の定義に従い統一する。
 - 会務・委員会の引き継ぎについて
会務の引き継ぎについて前任者に引き継ぎの確認をすることになった。

次回以降の理事会予定

第 244 回：2011 年 3 月 19 日（土）14 時 00 分から 17 時 00 分 場所：コクヨ品川オフィス

第 245 回：2011 年 6 月 18 日（土）14 時 00 分から 17 時 00 分 場所：コクヨ品川オフィス

第 34 回顧問会・評議員会・支部役員会合同会議報告

日時：2010 年 9 月 10 日（金）16:00～17:00

会場：広島大学大学院教育学研究科 K203



第 34 回顧問会・評議員会・支部役員会合同会議は、顧問（2 名）、評議員（15 名）、支部役員（2 名）、役員（16 名）、年会企画委員長（1 名）が出席して開催された。吉田会長の挨拶、自己紹介に続いて、吉岡理事（庶務）及び坂谷内理事（経理）から、事業報告、事業計画、収支決算・予算案等について説明が行われた。また、吉田会長から新役員、新名誉会員候補案が紹介された。参会者からは、今後の学術の動向と学会のあり方等について質問や意見が出された。

第 35 回年会 開催案内 (第 2 次)

1. 年会テーマ :

テーマ : 次世代の科学力を育てる : 社会とのグラウンディングを実現するために

趣旨 : 「次世代の科学力を育てる」というメインテーマは、現代の科学教育において重要課題であるため、第 33 回年会から引き継いでいます。今回の年会では、これまでの年会の成果を踏まえて、「科学力」を社会全体に根付かせること (グラウンディング) を実現するために求められる科学教育の諸要件について議論します。

2. 日程 : 2011 年 8 月 23 日 (火) ~ 25 日 (木) (3 日間)

3. 会場 : 東京工業大学すずかけ台キャンパス
(〒 226-8503 横浜市緑区長津田町 4259)
<http://www.sok.titech.ac.jp/>

4. 主催 : 日本科学教育学会 (後援 : 未定)

5. 年会実行委員会 :

[委員長] 寺野隆雄 (東京工業大学)

[委員] 吉川 厚 (東京工業大学) ほか

6. 連絡先 : 〒 226-8502 横浜市緑区長津田町 4259-J2-52
東京工業大学 知能システム科学専攻
寺野隆雄研究室
Tel/fax 045-924-5583
JSSE2011-admin@trn.dis.titech.ac.jp

7. 内容 : 次の内容を予定しています。

(1) シンポジウム

テーマ : 大人の科学リテラシー : その理想と現実 (仮題)

趣旨 : 現代では子どものみならず、大人の科学リテラシーの欠如が問題となっています。大人の科学リテラシーは、生活や仕事を主体的にデザインするために現代社会では重要な機能を持っています。さらには、大人の科学リテラシーを高めることは、次世代を担う子どもたちの科学力を育成するための一つの基盤となります。本シンポジウムでは、大人の科学リテラシーをどのようなものとして想定すればよいのか、リテラシー向上を実現するためにはいかなるアクションを取らなければならないのか、などの問いについて、理想と現実を踏まえた議論を行います。

(2) 招待講演「科学教育研究セミナー」

特定分野でアクティブに研究を進めている先生方をお招きし、会員向けに専門的なお話を聞かせて頂く招待講演です。

(3) 課題研究

昨年までの学会企画と自主企画を統合し、学会員から多様な研究テーマに関する企画を募集します。

(4) 年会実行委員会企画セッション

生涯学習としての科学教育について、科学の学び直しのデザインを議論します。

- (5) 一般研究発表
昨年までと同様です。
- (6) インタラクティブセッション
昨年までと同様に、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う研究発表です。
- (7) その他の企画：総会、懇親会、若手の会、各種会合など

8. 企画募集：

- (1) 課題研究
 - ・一次受付締切：2011年3月25日（金）
 - ・企画受付締切（発表者一次確定）：2011年4月18日（月）
 - ・審議結果報告：2011年4月28日（木）
 - ・発表者の最終確定：2011年5月31日（火）
 - ・原稿提出期限：2011年6月30日（木）23：59
- (2) 一般研究発表
 - ・発表申込と原稿提出期限：2011年6月30日（木）23：59
- (3) インタラクティブセッション
 - ・発表申込と原稿提出期限：2011年6月30日（木）23：59

9. 課題研究応募に当たっての留意事項：

- ・オーガナイザー資格：会員でなければなりません。
- ・発表者（指定討論者含む）の確定：発表者を企画受付締切までに確定してください。発表者未定の企画は受理されません。なお、課題研究発表での登壇は1回となりますので、発表者を依頼される際にはご留意願います。
- ・筆頭発表者資格：筆頭発表者は会員、非会員を問いません。ただし、非会員による発表件数は、原則として全発表件数の半数を超えないものとします。やむを得ずに半数を超える場合は、企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込んでください。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えていて理由書が添えられている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議いたします。非会員による発表件数が企画受付締切時点（4月18日）で全発表件数の半数を超えておらずに受理された企画であっても、受理後にやむを得ない事情によって発表者の変更がなされた結果、非会員による発表件数が全発表件数の半数を超えた場合には受理は取り消されますのでご留意願います。

※ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味します。

10. 年会企画委員会：

委員長：山口悦司（神戸大学）

副委員長：加藤 浩（放送大学）、谷塚光典（信州大学）

幹事：松浦拓也（広島大学）

委員（五十音順）：青山和裕（愛知教育大学）、加藤久恵（兵庫教育大学）、清水克彦（東京理科大学）、大黒孝文（同志社女子大学）、茅野公穂（信州大学）、寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）、寺野隆雄（東京工業大学）、東原貴志（上越教育大学）、二見尚之（湘南工科大学）、松崎昭雄（埼玉大学）、三崎 隆（信州大学）、森田裕介（早稲田大学）、吉川 厚（東京工業大学）、渡辺雄貴（首都大学東京）

担当理事：佐伯昭彦（鳴門教育大学）、高藤清美（筑波学院大学）

若手の会

【第 35 回年会での会合】

現在、年会企画委員会で検討を進めています。企画が決まりましたら、学会レター、年会ホームページ、メーリングリストなどでお知らせいたします。お楽しみに。

【若手の会メーリングリストのご案内】

JSSE 若手の会では、山形大学の加納寛子先生のご支援により、メーリングリストを立ち上げています（加納先生、ありがとうございます）。参加者のみなさんで相互に、国際会議、新刊案内、求人など、研究情報を交換しています。

参加をご希望される方は、下記の要領でご連絡ください。

- ・ 申込先アドレス（加納先生）：kanoh@pbd.kj.yamagata-u.ac.jp
- ・ 件名：科学教育学会若手の会 ML 登録希望

また、登録アドレスの変更または削除についても、必ず上記加納先生宛にご連絡くださいますようお願いいたします。

■ 第 35 回年会「若手の会」企画担当委員

青山和裕（愛知教育大学）kaoyama@aecc.aichi-edu.ac.jp

加藤久恵（兵庫教育大学）katohi@hyogo-u.ac.jp

研究会・支部だより

平成 22 年度第 5 回日本科学教育学会研究会（中国支部主催）のご案内

平成 23 年度から新学習指導要領が完全実施され、これに対応した教育研究とそれに基づく実践のあり方が求められています。そこで、小学校から大学までの教員や研究者が「新時代に対応した科学教育研究と実践」をテーマとして様々な立場から議論したいと思います。つきましては、下記の要領で研究発表を募集しますので、多数の方々の申込みをお待ちしております。なお、テーマに関する発表以外で科学教育全般に関する研究発表も歓迎いたします。

- 主 題：新時代に対応した科学教育研究と実践
主 催：日本科学教育学会、日本科学教育学会中国支部
後 援：岡山県教育委員会（予定）、岡山市教育委員会（予定）
日 時：2011 年 6 月 4 日（土）10:00～17:00
会 場：就実大学 E 館
対 象：学会員、小学校・中学校・高等学校・大学教員、学生、社会人
参 加 費：学会員は無料、学会員でない方は 500 円です。
注）講演論文集を 1000 円で販売します。

参加予定者数：約 50 人

アクセス方法：JR 岡山駅から山陽本線または赤穂線に乘車 3 分、西川原駅で下車・徒歩 1 分

就実大学 URL：<http://www.shujitsu.ac.jp/web/>

申込先（連絡先）：秋吉博之 E-Mail：jsse201106@shujitsu.ac.jp（研究会用）

〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原 1-6-1 就実大学教育学部

申込締め切り：2011 年 5 月 6 日（金）

発表原稿の締め切り：2011 年 5 月 20 日（金）

会場世話人：秋吉博之 TEL&FAX：086-271-8372（直通）

詳細は、学会ウェブサイト（<http://www.jsse.jp/jsse/>）をご覧ください。

平成 22 年度第 2 回編集理事会報告

平成 22 年 11 月 20 日（土）11:00～14:00、平成 22 年度第 2 回編集理事会が内田洋行・東陽町オフィスにおいて開催されました。

まず、平成 22 年度第 1 回編集委員会（新旧編集委員合同）議事録の確認と「科学教育研究」の編集状況の報告が行われました。新規投稿論文(2010.9.3～2010.11.11)が 15 編(和文 15 編、英文 0 編)、査読中論文 21 編（第 1 回査読中 12 編、再投稿待ち 5 編、第 2 回査読中 1 編、査読員選定中 1 編、1 回目判定中 1 編、総合判定中 1 編）、掲載決定論文が 7 編（研究論文 6 編、資料 1 編（34-4：6 編、35-1：1 編））です。

続いて、以下の 2 点について審議と報告が行われました。

- (1) 第 36 巻特集のテーマと担当者について、土田編集理事より報告の後、意見交換が行われました。テーマは「科学才能教育 (Science Education for the Gifted)」で合意し、今後、編集部会において構成メンバーの検討を進めることでも了承されました。なお、この特集に関わる会員への告知は平成 23 年 2 月下旬を目指し、原稿締め切りは平成 23 年 9 月末日、発行は平成 24 年 6 月を予定しています。
- (2) 第 35 巻各号の巻頭言と編集後記担当者について、土田編集理事より報告の後、意見交換が行われました。
- (3) 第 35 巻第 2 号の特集について、垣花編集部会長より編集状況の報告がなされました。投稿論文数が 8 編、掲載不可論文が 1 編、査読中論文が 7 編、招待論文が 4 編となっています(平成 22 年 11 月 20 日現在)。この特集については 2010 年 5 月初旬入稿を完了し、2011 年 6 月中に発行予定です。

次回、編集理事会は平成 23 年 3 月 19 日土曜日 11:00～14:00（会場：コクヨ品川オフィス 予定）の予定です。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況（平成 22 年 11 月 11 日現在）

	新規投稿 論文数 (篇)				掲載決定論文数 (掲載号)		招待論文数 (掲載号)		掲載不可 論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載 不可	辞退
2009 年 12 月	3		25	1	4 (34-1) 1 (34-2)				4	
2010 年 1 月	6		26	1	1 (34-1)				1	2
2 月	5	1	24	2	1 (34-1) 4 (34-2)				2	
3 月	4		15	2	7 (34-2)				8	1
4 月	6		16	1	2 (34-2)		2		5	
5 月	6		15	1	2 (34-2) 1 (34-3)		2		2	
6 月	3		15	1	1 (34-3)				3	
7 月	2	1	13	1	2 (34-3)	1 (34-3)			2	
8 月	7		14	1	1 (34-3) 1 (34-4)				3	
9 月	2		13	1	3 (34-4)				1	
10 月	12		21		2 (34-4)				3	
11 月	1		21		1 (35-1)					

第 34 回定時総会において国際貢献賞を受賞された大隅先生に、本欄へ寄稿していただきました。

国際貢献賞を受賞して

大隅紀和（京都教育大学名誉教授）

第 34 回年会（広島大学）で、はからずも国際貢献賞を受賞しました。このうえない栄誉だと喜んでます。武村重和広島大学名誉教授が受賞されて以来、ながい期間が経過して二人目となったとのこと。受賞当日には、やむない別用があったため、その事情を知った武村先生の特別のご好意で代理として受け取っていただき、過分な紹介スピーチをしてくださったこと仄聞しています。関係各位のご配慮とともに感謝しています。

私が京都市青少年科学センターから、当時は目黒にあった国立教育研究所の科学教育研究センター・教材教具開発室に着任したのは 1973 年秋。まさに本学会の創設前のことで、尽力されていた大塚明朗先生はじめ、センター長だった大橋秀雄先生など錚々たる先達のご指導をいただいたこと、これまでの活動の基盤になっています。

その頃、武村先生は文部省におられて、研究所と共同してユネスコ・アジア太平洋地域事務所 ROEAP（バンコク）の支援で国際会議やセミナーが活発に開始される時期でした。当時は四十前だった私も、国内や国外のワークショップに参加する機会に恵まれ、それを契機に、その後は JICA の協力事業も加わり、鳴門教育大学と定年を迎えることになる京都教育大学の大学時代にも多くの科学教育、教育工学の研究者たちと交流を続けることができました。

よく「外に出ると、内のことがわかる」と言われます。いまにして思えば、31 才で初の渡米をしてカリフォルニア大バークレ校、スタンフォード大など全米科学財団 NSF の大規模支援による科学教育プロジェクトや大型コンピュータの初期の教育実験を見たことは、その後四十年の教育協力活動を続けるエネルギーとなっています。

時代はソ連による初の人工衛星スプートニク（1957 年）が、米国に大きなショックを与え、まさに NSF による科学教育革新運動の潮流があった頃のことです。PSSC 物理はじめ多彩な科学教育プロジェクトの成果は、米国だけではなく欧州や多くの途上国にも科学教育革新の波となって広がりました。

アジアではフィリピン大学科学教育センター UPSEC（現 NISMED）、タイ教育省・科学技術振興研究所 IPST、マレーシアのペナンに東南アジア文相機構 SEAMEO が運営するアジア地域理科数学教育センター RECSAM など、国際的な援助機関の支援による創設が続く時代でした。各国でも理数科教育革新に向けて、たとえばフィリピン科学高校 PSH、韓国では各県に素晴らしいサイエンス高校が、そして日本で理数科高校が各地に誕生するという状況となり、「教育の現代化」の合い言葉とともに科学教育の充実が叫ばれたものです。日本国内では全国各地に科学教育センターの開設が続き、本学会の 1976 年の創設にいたりしました。

国内向けの仕事に集中して従事する人が多い中で、私は外向きの仕事にも関心を持ち続けました。おもな仕事は実験器具を試作・開発することだっただけに、日本国内よりも、海外とりわけ途上国の科学教育担当者や現場の先生たちに注目され、それに刺激を受け続けまし

た。その詳細は、拙著「海外ボランティアの現場」(OES 研究所、2009 年刊)を参照していただくと思います。

科学教育で主張される「子ども中心の学習」「実験重視」は、誰も反対するものではありません。特に情報化時代にあつて実験観察の価値は、ますます重要になっています。ただし一つひとつの実験観察を丁寧に実施し、意義あるものにするには、現場の教師による準備作業と後片付けに多大の時間と労力を前提としています。

目の前の子どもたちは 10 年、20 年先で、国際社会で活躍するだけに、日本だけではなく国際的に通用する科学教育を模索し実践しなくてはなりません。一方では、多くの科学教育プロジェクトの成果のむやみな押しつけが、教科書内容の消化だけでも困難を感じている多くの現場の先生たちに苦痛を与えている実情があります。

従つて、これからの実験観察に使う実験器具や教具・教材には、教師に快適さもたやすようなデザインと機能が要求されます。この方面の仕事こそ、ネット時代だけに一層重要になっています。日本での取り組みは海外からも注目されています。ぜひとも若い世代の熱意ある活動を期待したいものです。

私自身は、昨年 3 月末にタイの二年の滞在から帰国して、泉佐野の田園に居住。自宅横に小さいながら近隣の子どもと先生たち向けに OES 研究所を開設して「科学教室」と「閑空あおぞら文庫」を運営しています。

これまで本職としてきた実験器具の制作は、OES 研究所だけではなくタイの IPST に訪問する機会に現地職員と議論し制作し、国内で頒布することも続けている日々です。今回の受賞に恥じないように地道な取り組みを心がけたいと思っています。

(なお、文中の拙著は実費頒布しています。お問い合わせは、oes@major.ocn.ne.jp 宛にお願いします)

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 200 号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 web サイトにある「お問い合わせ」(web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：荻原 彰 (三重大)	久保田善彦 (上越教育大)
委 員：隅田 学 (愛媛大)	土田 理 (鹿児島大) 藤岡達也 (上越教育大)
二見尚之 (湘南工科大)	美馬のゆり (はこだて未来大)
谷塚光典 (信州大)	渡辺政隆 (科学技術振興機構)
幹 事：茅野公穂 (信州大)	福井智紀 (麻布大)

科学教育研究レター 編集・印刷

日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内

□事務支局 (入退会・会費・学会誌発送関連) TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : jsse@nacos.com

□編集事務局 (論文投稿・査読編集)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : jsse-hen@nacos.com

中西印刷 (株) 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会